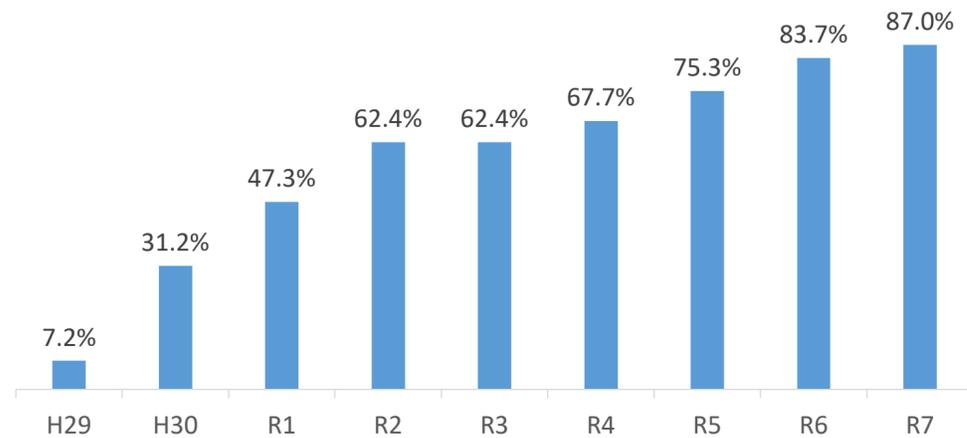
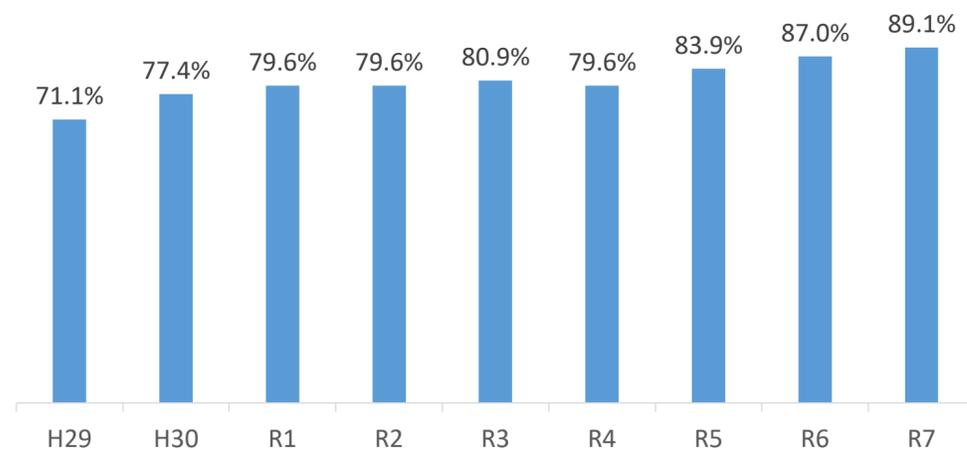


# ○主な項目の進捗状況および課題

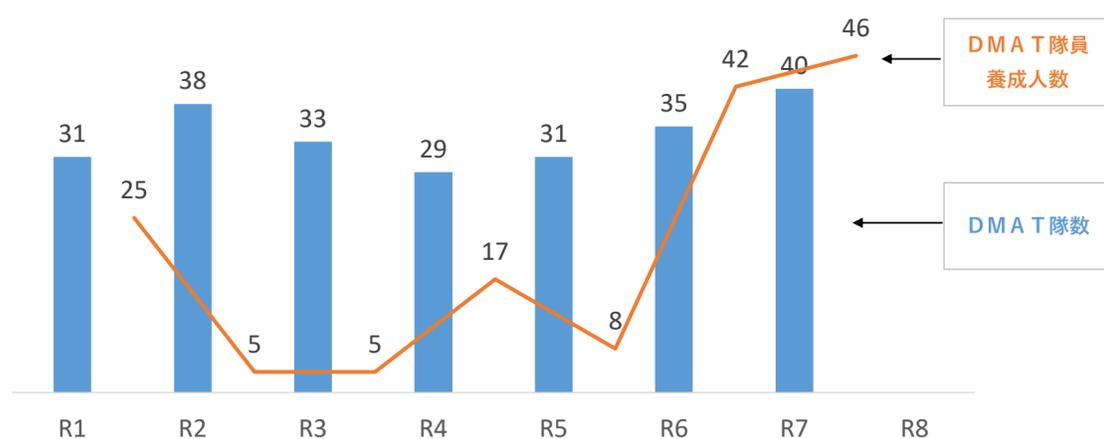
【指標：病院におけるBCP策定率】



【指標：病院の耐震化率】



【指標：DMAT隊数（三重L-DMAT隊員含）】



## ○今後の課題

- ・ 病院BCPを未策定の病院からは「人手不足」のほか「何から着手すべきか不明」等の理由が挙げられており、これまでに「病院BCP整備に係る地域別研修会」で実施してきた策定支援が引き続き必要です。
- ・ 病院BCPを策定済みの病院では、病院BCPに基づく病院訓練の実施（53.8%）、病院BCPの見直し（63.8% ※検討を含む）に取り組んでおり、本県でも「南海トラフ地震対策の強化に向けた取組方針【発災当初から復旧フェーズ版】～能登半島地震支援活動の「気づき」をふまえて～」において、各病院にライフライン等の被害想定をふまえた備蓄の検討を呼びかけることとしています。  
病院の状況や災害対策の方向性に変化が生じていることをふまえ、作成から6年が経過する「BCPの考え方に基づく病院災害対応マニュアル整備指針」の見直しが必要です。

## ○今後の課題

- ・ 耐震化が未実施の病院の多くが調査に係る費用や建て替えを検討している等の理由により、耐震診断を実施していません。  
本県でも耐震整備に係る補助事業を実施しているため、引き続き未実施の病院に周知・促進することが必要です。

## ○今後の課題

- ・ 令和6年度から実施している三重L-DMAT隊員養成研修によりDMAT隊員を養成するための体制が強化されていますが、各病院における隊の編成には職種ごとのDMAT隊員（医師1名、看護師2名、業務調整員1名）が必要であり、数値目標の達成には継続した実施が必要です。